



招待のお礼のあいさつをする大橋君（常盤公園で）

## 常盤公園の自然満喫

「風の学舎」と宇部新川LC

福島の小・中学生、見島合宿へ

東日本大震災の児童を支援する活動をしている見島「風の学舎」

と宇部新川ライオンズクラブ主催の第2回夏休み子供合宿で招かれた福島県内の小・中学生31人が27日、宇部市の常盤公園を訪れ、関係者の歓迎を受けた後、自然豊かな公園で終日、遊び回った。

被災地の子供たちを8月5日まで10泊11日の日程で萩市沖合の見島に招き、さまざまな体験活動を通じて元気になってもらおうと昨年からは開いている。

今回は福島県郡山市、警梯町の小学校4年から中学校1年までを招待。26日に福島県を出発した参加者は、1230きの行程をバスで宇部市までやって来た。

歓迎式では志賀光法宇部新川ライオンズクラブ会長が「日本一きれいな見島の海と島民の人情に触れ、記憶に残る夏休みにして」と呼び掛けた。

これに対して参加者代表の大橋修介君（警梯第一小6年）が「震災後、自由に遊ぶことができず家の中で兄弟げんかばかりしていたが、昨年この合宿に参加し生まれ変わった。2回目があると聞

き、すぐに参加を申し込んだ。いろいろなことを学び強くなりた」とあいさつした。

この後、子供たちは長旅の疲れも見せず、東京ドーム40個分の広さの自然豊かな常盤公園を満喫。大観覧車に乗って宇部の街を一望したり、動物園舎の元気なサルに目を細めたりしていた。夜は新川ライオンズクラブ会員宅にホームステイした。

28日に見島に入り、合宿期間中、島に伝わる和たこ「鬼よつず」を製作したり、海水浴、魚釣り、和太鼓演奏などを楽しんだりする。

（浅野）